

# 廃バッテリー

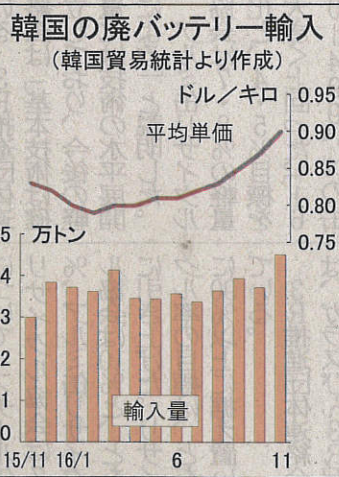
## 韓国、輸入4.5万トンと最多

### 11月、単価も90セン乗せ

韓国の廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）輸入が急増した。韓国関税庁がこのほど発表した貿易統計によると、11月輸入量は前月比21・3%増の4万5003トで、過去最多を記録。輸入平均単価も1年3カ月ぶりのキロ90セに上昇した。日本からの輸入は20・5%増の8606ト。

### 対日20%増え8606トン

鉛二次精錬業が盛ん 原料である廃バッテリー している。6月にほぼ韓国は、「リサイクル」を海外から大量調達 全ての二次精錬メーカー



ーが長年にわたりヒ素含有残渣を不法投棄し

ていた問題が発覚したものの、当局から操業

停止命令は下らず、廃バッテリーの輸入高水準が続いていた。

これまでの過去最多は3月の4万1389トで、4月以降は3万台半ばを推移していた。米国や日本からの輸入もやや落ち着いた印象があったが、11月は軒並み増加。9-10月のロンドン金属取引所(LME)の鉛相場上昇によって原料の先高観が生じたため、韓国側が買い急いだものと考えられる。輸入平均単価は前月比3.5%高のキロ90セと、昨年8月以来の高値を付けた。

主な輸入先と輸入平均単価は、アラブ首長国連邦(UAE)1万490ト(91セ)、米国

8930ト(93セ)、日本8606ト(87セ)、トゴ4262ト(91セ)、ドミニカ民主共和国3090ト(86セ)、ニュージールランド2790ト(88セ)、シンガポール2114ト(91セ)。対UAE輸入は過去最多、対米輸入は1年3カ月ぶりの高水準だった。

対日輸入は6月以来の多さだったが、平均単価は1セ安の87セで、6カ月ぶりに小反落した。為替の円安ドル高によって輸入単価が抑えられた面もあったとみられるが、UAEや米国に比べて割安感が増しており、日本に対する輸出圧力が今後強まることも想定される。